

# 減災連携研究センターシンポジウム - 「減災連携研究」の展望 -

2013年7月12日(金)13:00~17:30

※終了後交流会(任意・会費制)

会場:名古屋大学 ES 総合館 ES ホール

※地下鉄名城線「名古屋大学」下車徒歩2分/開場 12:00

参加料:無料 定員:200名

2011年に発生した東日本大震災は東北地方を中心に甚大な被害を記録し、また2012年に発表された南海トラフ巨大地震の被害想定は死者最大32万人という衝撃的な数字を示しました。わが国において防災・減災に関する研究や取り組みが重要であることは言うまでもありませんが、一方で「総合学問」「学際研究」と形容される防災・減災研究は様々な研究分野の英知を結集することが必要となります。そこで名古屋大学減災連携研究センターでは多数の研究者・実務者の参画のもとで、センターが2012年度に行った取り組み・研究成果を発表する場を設け、今後の課題を再確認するとともに、研究・活動をよりよいものとするためのディスカッションを行います。多くの皆様方のご参加をお願いいたします。

時間	内容	講師等
13:00~13:05	開会の挨拶	野田 利弘 教授
13:05~13:20	第Ⅰ部 活動報告 「センターにおける2012年度の取り組み」	福和 伸夫 教授 (名古屋大学減災連携研究センター長)
13:20~15:20	第Ⅱ部 研究報告 「減災連携研究の成果と今後の課題」(各15分) ① 東日本大震災時の火災に関する調査研究 ② 地盤・土構造物の挙動予測の高度化を目指して ③ 建物の実力を明らかにするために ④ 東北沖地震の『謎』を解き明かす ⑤ 「想定外」を回避するための災害地理学的研究 ⑥ 減災のための「ひと・こと・もの・ば」を繋ぐ研究 ～地盤・建物・社会の理解・予測と対策・実装～ ⑦ 質疑討論(30分) (寄付部門・兼任・客員教員・社会連携推進会議メンバー)	名古屋大学減災連携研究センター教員 ① 廣井 悠 准教授 ② 野田 利弘 教授 ③ 護 雅史 准教授 ④ 鷺谷 威 教授 ⑤ 鈴木 康弘 教授 ⑥ 福和 伸夫 教授 コーディネーター: 武村 雅之 教授
15:20~15:45	休憩(減災館見学)	寄付部門助教
15:45~17:25	第Ⅲ部 パネルディスカッション 「減災連携研究センターの果たすべき役割と南海トラフ巨大地震」	パネリスト:客員教員・兼任教員・社会連携推進会議メンバー コーディネーター:隈本 邦彦教授
17:25~17:30	閉会の挨拶	曾根 好徳 教授

※交流会(任意):事前登録制(ito.yumi@nagoya-u.jpまでお名前,ご所属をお知らせください)